

Peppolが輝かせる「主役」たち ～東急エージェンシー、デジタルインボイスの「自分ごと」化～

2026年5月1日、デジタル庁は、株式会社東急エージェンシーとの間で、政府調達システム（GEPS）に対するデジタルインボイスでの請求について「振り返り」を行いました。

株式会社東急エージェンシーは、オウンドメディアに関する動画コンテンツ制作・運用に係る業務をサポートしており、その請求について、GEPSに対するデジタルインボイスの方法にて請求を行いました。



株式会社東急エージェンシー

神林氏（写真右）及び井坂氏（写真左）

「振り返り」では、神林氏より「請求額が契約額から変動したため、請求前に契約変更及び請求金額の確定の手続きを行う必要が生じた。それにより、デジタル庁が求める期限後に請求を実施することとなったが、デジタルインボイスを活用したことで、手続き後速やかに請求を送信できた。そのおかげもあり、予定どおり4月中に支払を受けることができた」との取組結果の共有がありました。

そのうえで、神林氏から「今後のデジタル庁との契約案件についても、デジタルインボイスで請求を行うことで、スムーズに支払を受けられると期待している」との話がありました。